

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
医事コンピュータ II Computer Medical II		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(ICDコーディング応用編)	医事コンピュータ I 履修者のみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
PC 関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
医事コンピュータ I				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
古川 貴子	本館2階	火・水・木・金の9時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
医療業界は日進月歩で臨床も複雑化している中、病院事務員としての実務も多様化している。我が国のIT化に伴い、全国の病院も電子カルテシステムの導入が必須になっている。それに対応できる即戦力としての人材が当然求められているが、従来の医療事務(医事課)の知識の範囲では対応できない時代となっている。そこで、日々変化する現場状況を踏まえながら演習問題を中心に学習しその習得を図る。				
授業の目標				
①診療録から派生した国際疾病分類であるICD-10が、どのように意味を持ち重要であるかを説明ができるようにする。 ②病院業務におけるコーディングの活用方法を、現場の視点を踏まえて総合的に理解することができるようにする。 ③演習を通して問題解決の方法を習得し、ICDコーディング2級に合格することができるようにする。				
授業の方法				
医事コンピュータを基礎とし、演習問題を中心に実践方式で授業を進め、少しでも多くの事例を学習し理解を図る。				
学習の成果(学習成果)				
①病院の診療録の必要性を説明できる。 ②ICDコーディングルールによりコードを付与できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・ICDコーディング応用の概要説明			
第2回目	ICDコーディング基礎知識・演習(1. 感染症および寄生虫症 4. 内分泌・栄養および代謝障害)			
第3回目	ICDコーディング基礎知識・演習(2. 新生物 3. 血液および造血器の疾患ならび免疫機構の障害)			
第4回目	ICDコーディング基礎知識・演習(5. 精神および行動障害 6. 神経系の障害)			
第5回目	ICDコーディング基礎知識・演習(7. 眼および付属器の疾患 8. 耳および乳様突起の疾患)			
第6回目	ICDコーディング基礎知識・演習(9. 循環器系の疾患 10. 呼吸器の疾患)			

第7回目	I C Dコーディング基礎知識・演習（11. 消化器系の疾患 12. 皮膚および皮下組織の疾患）	
第8回目	I C Dコーディング基礎知識・演習（13. 筋骨格系および結合組織の疾患 14. 尿路性器系の疾患）	
第9回目	I C Dコーディング基礎知識・演習（15. 妊娠、分娩および産褥 16. 周産期に発生した病態）	
第10回目	I C Dコーディング基礎知識・演習（17. 先天性奇形および染色体異常 18. 傷病および死亡の外因の影響）	
第11回目	I C Dコーディング基礎知識・演習（19. 損傷、中毒、その他の外因の影響 20. 傷病および死亡の外因の影響）	
第12回目	I C Dコーディング基礎知識・演習（21. 健康状態に影響と及ぼす要因および保険サービスの利用 22. 特殊コード）	
第13回目	I C Dコーディング演習・症例に基づくコーディング 1 *レポート（提出日は授業内で指示）	
第14回目	I C Dコーディング演習・症例に基づくコーディング 2 *レポート（提出日は授業内で指示） *試験	
第15回目	I C Dコーディング演習・退院サマリーコーディング・総論	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	基礎知識・演習を理解している。授業に集中して取り組んでいる。
レポート	20%	宿題等で提出を求めた課題の内容と提出率で評価する。
調査報告書		
小テスト	10%	授業の進捗に合わせて随時確認テストを行い、理解度に応じて評価する。
試験	40%	授業の到達目標に掲げた項目の理解度に応じて評価する。
発表内容（態度含む）		
その他	10%	検定試験の合否により加点する。
教科書と参考図書		
I C Dコーディング応用テキスト（日本コーディングセンター）		
履修上の留意点・ルール		
授業に集中し、演習でわからないところは必ず質問すること。 I C Dコーディング検定を受験する場合は必ず履修すること。		